言葉と発達
いまどき子育てアドバイス
連載・119

ことばを育てる遊び方教室

その2

言語聴覚士 中川信子

事前準備

9時45分ころ集合、10時プログラム開始です。たった一回きり、わずか1時間半のチャンス。せっかく来てくださった親子さんとの対応に一番力を注ぎたいので、迎え入れや進行の混乱は最大限避けたいもの。そのためには綿密な準備が必要です。準備や留意点については、次回以降にお話しします。

ポイントとなるのは

①名簿の整備

②受け入れ方（兄弟姉妹の保育含む）

③当日掲示物の準備

④部屋の点検（子どもがこだわりそうな水道の蛇口、ドアハンドル、ビデオの操作板などにカバーをかけたり裏返しにして見えなくする、子どもが触ると危ないものを片付ける、など）

⑤使用する材料や遊具の準備

⑥流れ全体のリハーサルと打ち合わせ

などです。

集合　自由遊び

部屋は、カーペット敷きではありませんが、丁寧に清掃し、入り口で靴をぬいで、はだしで入るようにしてもらいました。抵抗があるなら、マットを敷いてください。遊びの中身からみて、土足ではやりにくいのです。

三々五々集まった親子さんのために積み木やボールなどのごく簡単なおもちゃを床に出しておき、自由に遊びながら待っていてもらいます。

部屋に入りにくい子や、不安げな親御さんには、スタッフが声をかけます。初めての部屋で、これから何が始まるのか分からないので、お母さんの抱っこから離れない子がいるのは当たり前のことですが、部屋に入ってからしばらくたっても泣き続けていたり、お母さんを座らせてくれない子（座ろうとするとイヤがる）がいたら、声かけしてみます。非常に緊張が高かったり、感覚的な過敏がある可能性があります。気難しく、育てるのが大変で、お母さんが子どもに振り回されて疲れているかもしれません。

また、いつまでも立っているお母さんがいたら、「どうぞ、お座りください」と声かけしてみましょう。お母さん自身が「床に座る」ことへの無意識な抵抗感、つまり触覚的な過敏や潔癖があったり、「みんなは座って遊んでいる」ということに気づいていなかったり、周りが見えにくいタイプの方である可能性もあります。

集団の場であっても、リーダー・サブリーダーによる個別の声かけは大切にしたいものです。あいさつ程度であっても、です。名札を見てお名前を確認できます。声をかけてもらうことで、お母さんの気持ちが緩むとお子さんも安心します。もっとも、知らないおばちゃんが近づいてきたことで、逆効果になる子もいるので見極めが難しいですが……。

初めのあいさつ、自己紹介

「では、始めますよー」の声かけで適当な大きさの輪になって座ってもらいます。最初の声かけは保健師の役割です。

ＳＴが進行の全部を取りしきるのは簡単なことですが、「事後フォロー全体の責任者は健康推進課」ですし、「ことばを育てる遊び方教室」の主催者なのですから、保健師が行うのがスジというものです。

遊びが終わった後の終わりのあいさつと、その後の相談のご案内も同じ理

由から保健師が行います。折あるごとに、保健師の存在をアピールするのは大事なことだと私はつねづね思っています。

部屋には15組の親子とスタッフが6～7人、あわせて40人近く。全員に声を行き渡らせるには、ある程度以上の大きさの音が必要です。中には泣いている子もいますしね。ワイヤレスマイクは必須アイテムです。

保健師が開始あいさつと自己紹介をしたら、マイクを回して参加スタッフ全員がそれぞれ所属と名前を自己紹介します。この「名乗る」という作業は、どこで仕事をするにしても私は大切にしています。来所者の名前は、私たちスタッフは名簿で事前に知っています。名前だけではなく、状態のあらましも知っています。一方的に知られていて、相手のことを知らないというのは、親御さんにとって決してフェアなことではないと思うので。

輪になってからのお子さんの「お名前呼び」はしません。お名前を呼ばれて「ハイ」と返事するんだ、という決まり事がまだ分からない子もいるし、お名前呼びに時間を取られて肝心のプログラム中に飽きちゃう子がいるかもしれない。何より「あの子はお返事できたのに、ウチの子は返事できなかった」と親御さんが余計な心配をしないためです。

すべてのプログラムを通じて、親子で楽しめているかどうかを大事にして、「上手にできた」「できなかった」が際立たないよう、声かけにも注意する必要があります。

「ではこの後の進行を中川先生にお任せします」との合図で、「ことばを育てる遊び方教室」本番の始まり始まり。プログラムは以下の通りです。

9：45	自由あそび
10：05	お集まり　手遊び・かかわり遊び
10：10	からだ遊び　その1
10：25	休憩
10：35	子どもの脳を育てるには？（ビデオ）
10：45	からだ遊び　その2
11：00	お集まり　手遊び・かかわり遊び
11：15	ご案内　さようなら
	さようなら

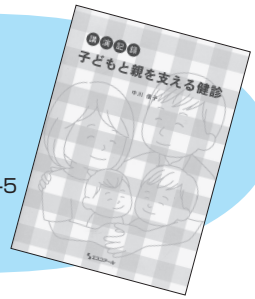
手遊び歌、かかわり遊び

まずは「手遊び」「かかわり遊び」「わらべうた」です。用意したものは6つ。

①どんぶらこ
②ひげじいさん
③あたま肩ひざポン
④ちょちちょちあわわ
⑤糸をまきまき
⑥いっぽん橋

どれも、ポピュラーな遊び。保育士さんにお尋ねすれば分かると思います。もし分からなかったら①以外のものは拙著『きほんの遊び142』（小学館）にCDが付録でついていますから参考にしてください。

①の「どんぶらこ」は、ある療育グループで毎日やっていた遊び。やり方は図を参照してください。足を伸ばして座り、そこに子どもを座らせて、「どーんぶらこ、どんぶらこ」「おふねにのってどんぶらこ」とはずみをつけて子どもを上下に揺らし、最後に「岩があったよ　ゴロン」（2番の歌詞は「たきがあったよ　ボチャン！」）と右か左に大きく揺らす、というあそびです。遊びの導入には最適です。子どもの腰のあたりをしっかり支えて子どもが不安にならないようにしてあげてください。楽譜が見つけられなくてすみません。



『子どもと親を支える健診』
著書　中川信子
（株）エスコアール出版部
定価（本体300円＋税）
ISBN978-4-900851-40-5

こんなにすごい！わらべうたの効用

それぞれの遊びをやるごとに、それぞれの動きが「ことばを育てる」ために持つ意義をかいつまんで説明しました。

以下に歌詞と動き、当日説明した「こんなにスゴイ！わらべうたの効用」を載せます。これは、小冊子にして持ち帰っていただきました。お家の他の人にも知ってもらい、お家でやっていただくためです。

こんなにすごい！　わらべうたの効用

	元気な体を作る	器用に動かせる手を作る	見る・聞く・話す力を育てる	心が育ち、知力が向上する	人と気持ちを分かち合う社会の一員になる
どんぶらこ	「揺れる」動き ⇒バランスを取る力 ⇒体の筋肉をじょうずに使いこなす力	大人にしがみついたり、つかまったり。 自分からつかまる力は器用な手への第一歩。	体が動いている ⇒おとなの声が聞き取りやすい	最後に「どっすーん」と大揺れする楽しみが大切。 ⇒見通しを持って待つ力のおおもとです。	ちょっと怖いけど、大人が一緒だから大丈夫！という安心感を学びます。
ひげ じいさん	座ると下半身が安定します。すると上半身（腕や肩）を安心して、意識して動かせます。	げんこつでの両手交互の動き。 腕全体の大きな動きは微細な器用な動きの基礎です。	「とんとんとんとん」という繰り返し ⇒次のことばへの注目度を高めます。	ほっぺ、あごなどの場所（身体部位）に手が触れることで自分の体の感じ（ボディイメージ）がつかみやすくなります。	ボディイメージは「自己意識」「自我」の確立のために大切な要素
あたま 肩ひざポン	触れることで体の部位を意識します。	手を「あたま」「肩」「ひざ」と順序よく動かす。 思い通りに動かせる手は「製作」や「お絵かき」の基礎。	大人が楽しいリズムと一緒に体の位置を示してくれるので、注目しやすくなります。	あたま・肩・ひざは、体の部位の中でも大事なポイント。しっかり意識できることが大事。	「ひざポン」の間じゅう次はどこかな？　と期待して待ちます。じょうずにできてうれしい気持ちを共有します。
ちょちちょち あわわ	口も手も、触れることでその存在に気づきます。「存在に気づく」ことが「じょうずに動かす」ための基礎。	「手を合わせ⇒片手だけを口に運び⇒左右逆に回転させ⇒一本指を立てて反対側の手に触る」。 一連の順番のある動きが手の動きを高めます。	無意味だけれど面白い音の連続。 音への注目や発音をまねようとする力を育てます。	≪何だか分からないけど楽しい気持ち≫が学習の基礎です。	大人が手を添えてやってくれる「あーわーわ」から自分ひとりでやってみる「あーわーわ」へ。 自立の前提は親しい人に十分に支えられる経験です。
糸を まきまき	座った姿勢 ⇒安定感がある。 注目する力がよく働きます。 上半身の自由度も増します。	ゲンコツをつくり⇒体の前で回し⇒左右に広げ⇒体の前でトントンという、順番のあるなめらかな動きが身につきます。	うたやリズムの助けがあるので、心地よく、楽しく聞けます。	最後に何かが「できる」という目標に向かって楽しく参加できます。	「できたもの」を大人と一緒に見て確認。このことを「共同注意」とか「三項関係」とか言いますが、ことばの基礎になる力です。
いっぽん橋	くすぐり遊びは、楽しい中で全身の筋肉を緊張させる、大切な経験。 筋緊張は「歩く」ための基礎。	「してもらう」遊びですが、他人が手に触れてくれることで、「手」に強く注意を向けることができます。	「階段のぼって…」のところでわざと少しリズムをくずすと、触られている部位に注意を向けやすくなります。	「こちょこちょ」「たたいて」「つねって」「（階段を）のぼる」などのことばが動作と一緒になって自然に覚えられます。	くすぐりが来るかな、来るかな？　と期待して待つ、くすぐられて笑う、笑顔を親子で共有する。どこをとっても申し分のない遊びです！